

大いちょう

令和7年10月29日
岐阜市立加納幼稚園
園長 藤井 佐由美

親子ふれあいフェスティバル②（運動会）へのご参加ありがとうございました。

いちょう組・さくら組合同 協力ゲームについて

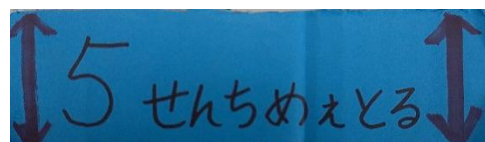
5歳児の保護者には、親子ふれあいフェスティバル②の前日に、以下のようなお便りを配信していました。3、4歳児の保護者の方にも、運動会で5歳児の競技について、前日までにこのような過程があったことを知っていただければと思い、掲載させていただきます。

◆大切にしたいふたつのこと

1. 大きい組やチームのみんなで力を合わせる
2. 昨日の自分たちより、今日の自分たちが大きくなること（昨日の自分たちを超えること）

◆約束

- ① 各チーム一つだけアイテムを交換することができる
- ② 交換する（いらないもの）アイテムを決める
- ③ チームのみんなと相談して、新しいアイテムを一つ探してくる
- ④ 探すための制限時間は5分間
- ⑤ 探してもよい部屋は、遊戯室、いちょう組、さくら組の3部屋
- ⑥ 高さのしほりとして、5cmを超えないこと（5cmものさしを使う）
- ⑦ アイテムが決まったら、ボールを乗せる準備、制限時間は2分間
- ⑧ 運んでよいのは、一人1回のみ
- ⑨ 赤、青、黄チームで力を合わせて集めたボールを最後に一つの入れ物に入れ、昨日より今日の方がボールが多く集まったらミッション成功



◆前日までの様子

15日までは、「大切にしたいふたつのこと」を念頭において、毎日、アイテムの交換から、協力ゲームまでを繰り返し楽しむことができました。はじめのころは、お玉を箱に交換する、トングを皿に交換するなど、モノとモノとの交換ばかりでした。段々大きな体操マットを力を合わせて運ぶ姿や、段ボール箱を探して5cmものさしで計測し、高さに合わせて切るという「加工」という新たな手法が生まれてきまし



一人が輝き始めました。

16日は、18日の運動会のように17日のためのアイテムの準備をする時間を取りました。各チームアイデアがどんどん出始めていたので、それぞれ保育室やホールに分かれて活動しました。

17日は、初めて小学校の校庭（戸外）で、「協力ゲーム」をやってみました。ゲーム終了後に、今日のために工夫したことや考えたことを、チームごとに発表しました。

17日の午後は、18日の運動会に向けて、さらに工夫し、アイテムを作ったり、補強したり、作り変えたりしていました。18日の運動会では、工夫したことや考えたことを発表する時間がないため、17日の様子を書き留めておきます。

●赤チーム・・・16日に作った段ボールは、少し弱かったため、もっと強い平段ボールを用意しました。17日に競技をやってみて、体操マット、段ボールと2つの大きなアイテムを用意したけれど、運ぶ人が足りないことに気付きました。運ぶのがメチャメチャ大変だったんですね。そこで、新しくアイテムに加えた大きくて丈夫な平段ボールの上に体操マットを乗せて合体してみました。平段ボールのままでは、ボールが転がって落ちてしまうため、周りに囲い（壁）を付けました。もちろん、5cmの高さを守って、ちゃんと切り取っていますよ。もう一つの段ボールにも囲い（壁）を付けたのですが、こちらは、牛乳パックで壁を付けたことで、残念ながら5cmを超えてしまい、もう切るしか方法がないようでした。牛乳パックを切ったことで、壁がグラグラになってしまいました。しかし、さすがは赤チームの子どもたち、牛乳パックを切ったことで、「開いた箱の中にもボールを入れられる！」とスーパーポジティブに考えて喜んでいました。（入れたり、出したりがかえって大変ではありますが、そこはご愛嬌！）段ボールの上側に段ボールの波の性質を生かして、ボールをスムーズに流し込めるように工夫していますが、うまくいくのでしょうか。

●青チーム・・・初回のころには、タイマーを気にする子どもが、何度もタイムを確認に行き、みんなに知らせる様子が面白かったです。時間に間に合わせることを意識して、「もう、時間ない！〇〇ちゃんのいいやつでいいから！〇〇ちゃん、これがいいの？よし、じゃあこれにしよう！」というような時間優先の決め方だったのですが、ここへきて、青チームの几帳面な姿が見えてきました。16日には、明日から戸外で行うことを踏まえて、まずは体操マットにシートをかぶせ始めました。それ以外にも部屋で使用





しているトレーなどにもビニールをかぶせていました。マットにシートをかぶせた後も、入念にガムテープを貼っていき、更に、17日には、戸外で使用した体操マットのシートを一旦はがして、再度きれいに包みなおし、ガムテープを貼るという青チームの几帳面さが表れていました。そして、17日には、その上にカラーポリ袋を貼り、3層くらいに重ね貼りをすると、その口をはさみで切り取り、マットに重なった大きなポケットをいくつも作りました。ど

うやら、この中に入れる作戦のようです。さあ、うまくいくのでしょうか。もう一つは、アイテム交換の時に、大きいものに変えるという発想ではなかった青チームでしたが、14日頃には、箱と箱を合体したらよいのでは・・・というアイデアが生まれ、箱をつなぎ始めました。しかも、箱の側面を切り取り、底面だけを貼り合わせて、大きな箱にするというアイデアも生まれました。さあ、大きなカラーポリ袋のポケットを取り付けたことで、たくさんボールを運ぶことができるのでしょうか？

●黄チーム・・・アイテム交換において、最後まで鍋で運ぶことにこだわっている子どももいました。その鍋が、17日には、他の子どものアイデアで鍋と鍋を合わせて、ふたつ鍋に・・・他にも大きな体操マットを持ち出し、15日に競技をやってみると、周りからコロコロとボールが落ち、バスケットに入れるときにも全落ちするという大惨事になりました。そこで、16日に、青チームが考えたのは、マットの上に蓋をかぶせることでした。高さ5cmを守るために、どんなもので蓋をするとよいのか相談しました。その結果、カラーポリ袋と網を思いつきました。17日にやってみたときには、カラーポリ袋や網にボールを入れて、また出すことがかなり面倒な作業のようにも見えましたが、このゲームの中で子どもたちには「面倒くさい！」という概念がないようで、力を合わせて全力で行っていました。そして、17日の準備では、更に、カラービニールポリ袋に窓のような蓋（本人的にはかわいい窓にしたいらしい！）を付けていました。また、「クジラ」と名付けた段ボールの箱に小さな箱をいくつか合体させてたくさんのボールを運べるように工夫しました。これらのアイテムを使って、うまくボールを運べるかが見ものです。



って力を合わせたりする場面が多く生まれました。

協力ゲームを行う過程で、教師も「おとな会議」を重ねてきました。その中で、教師はファシリテーター役に徹し、決して大人の概念で効率化や大量運搬に結び付けないように気を付けることを話していました。その結果、子どもに任せることが多くなり、日増しに子どもたちが結束して「こども会議」を行ったり、夏祭りの時とはまた異なった子どもが多く意見を出したり、それぞれの良さを生かし合

当日は、子どもたちの「協力ゲーム」を見て、何をやっているのかわかりづらいことがあったかもしれませんが、しかし、確実に子どもたちは「昨日よりも今日！！」「昨日の自分たちを超える！」という目標に向かって力を合わせていました。子どもたちの小さなこだわりや工夫、力を合わせる姿等を温かいまなざしでご覧くださり本当にありがとうございました。



実は、16日に、「赤チームは、ボールがいっぱい集まり、ボールがあふれました。」という手紙がミッション星人の元に届きました。そのため、ミッション星人は、急遽、バスケットと、最後に全ボールを回収するボックスを増やさなければならない事態となりました。こんなやり取りも、心から楽しむことができました。

また、この協力ゲームを始めてから子どもたちから、ゲームの終わりに「また、明日もやりたい！」「また、協力ゲームできる？」「運動会でみんなでやるの、このゲーム（競技）にしたいなあ！」という声が多く聞かれるようになり、協力ゲームを見ていただくことになりました。

◆余談・・・16日頃から、5cmものさしの偽造品が出回っていることが発覚！子どもたちは記憶だけで、自分たちの「マイ5cmものさし」を作り始めました。子どもって本当に面白い！タイマー5分の感覚も、覚えましたよ。



3歳児の競技では、「見つからないようにかくれるよ！」について、教師間で話し合ったときに、「隠れる⇔見つける」という対の関係性の中で遊べることを大切にしたいと思いました。はじめは、「新聞紙で自分を隠して（ダンゴムシになって新聞紙を上からかぶせる）、おうちの人に見つけてもらう」という競技内容でしたが、もっと、子どもたちにとってわかりやすく、子どもたちが隠れる楽しさと見つけられるスリルを味わえるようなものにしたいと考え、ボックスの中に隠れ、窓からのぞくということを提案さ



せていただきました。保護者からいただいた段ボールを活用し、ボックスを作って保育室にもっていくと、子どもたちはさっそく中に入って窓からのぞくことを楽しみ始めました。「かわって！」と言いながら一人ずつ入っている姿から、2人、3人と一緒に入ることを楽しむ姿になっていきました。人数制限をせず、子どもが入りたいところに入ることを大切にしたいと考え、当日もそのように行いました。隠れることが好きな子どもは、何度も隠れることを楽し

しみ、見つかる前に出てきてしまっていた子どもも、段々見つかるまでじっとしていることができるようになっていきました。当日は、見つける役がおうちの人であったことから、この上ない笑顔や安堵の表情を見せる子どもたちが印象的でした。本当は、窓を介して子どもとおうちの人とのまなざしが合う絶妙な瞬間を楽しんでほしいと願っていましたが、説明が足りずに申し訳なかったと思います。めちゃめちゃ可愛らしかったですね。子どもとおうちの人との温かい関係性にキュンキュンさせていただきました。

4歳児の競技「カマキリによるバッタの掴み取り」では、これまで遊びの中で絶えず中心にあったカマキリとバッタの世界を競技にすることになりました。同じしっぽ取りでも、いくつも帯をつけることができ、その数も自分で選択・決定できることや、取る側と取られる側を選択・決定できるところが、4歳児の発達に合った柔軟な競技になっていたと思います。初期のころは、担任が取られる側になって何度も何度も走り、子どもたちが大人に勝ちたい意欲を燃やしている姿が面白かったです。子どもって大人に憧れもあるし、それを超えたいとも思っているんですね。また、勝敗を見るのに、帯をつないで長さで比べるという手法も子どもにとっては、学びの土台となっていました。3歳頃に対する関係性が分かるようになりますが、大きさ、長さ、数量、重さなどいろいろな比べ方を経験することで、学びの幅が広がります。遊びながら学んでいる姿をご覧いただけたと思います。



テクノランド最高に楽しかった！！

9月30日（火）には、岐南工業高等学校との交流である「テクノランド」が開催されました。詳しくは、後日配信されますYouTubeをご覧ください。ここでは、いくつかのコーナーの様子を紹介していきます。詳しくは、ホームページをご覧ください。





園外保育・遠足に行ってきました！！



10月23日（木）は、路線バスとふれあいバスを乗り継いで、4歳児が「ながら川ふれあいの森」にでかけ、『のぞいてみよう虫の世界』を、名和昆虫博物館の名和先生と共に楽しむことができました。

⇒左から：アサギマダラ・ツチイナゴ



⇒左から：ツマグロヒョウモン交尾中・キタテハ・アカハネオンブバッタ

薬木の広場についてからおおよそ1時間程度、散策をしました。はじめは幼稚園と同じでダンゴムシを探す子どももいましたが、そのうち他方から「捕まえた!」「バッタだ!」「チョウチョだ!」という声がするようになるとそれにつられて、シジミチョウを追いかけるようになりました。シジミチョウは子どもでも、比較的容易に捕まえることができるため、今まで自分で捕まえたことがない子どもにとっては、『自分で捕まえた!』という事実がとても自信につながっていたようです。捕まえてから、自分の虫かご(袋)に入れるまでがなかなか難しく、その時点で逃げられてしまうことも多くありましたが、それでもあきらめずに最後まで自分の力で・・・と奮闘する子どもたちを見て、『たくましさ』を感じました。

個人的には、フジバカマが植えて育てている場所に、たくさんのアサギマダラが、蜜を吸いにやってくる姿が美しく、優雅で見とれてしまいました。昨年度、加納幼稚園にもアサギマダラを呼びたいと切に願い、花壇にフジバカマを植えたのですが、幼稚園には来てくれていません。それを間近で見られて本当に幸せでした。でも、幼稚園のバタフライガーデンには、ナミアゲハだけではなく、アカボシゴマダラやゴマダラなど、今までにはやって来なかったチョウチョが多く来てくれるようになっていきます。勢いのあるブuddleアを刈り取ってもらったので、後ろにあるフジバカマがもう少し増えてくれると、幼稚園にもアサギマダラが来てくれるようになるかもしれません。

遠足(金華山登山・アクアト岐阜への遠足については、ホームページをご覧ください!)



《11月の保育について》

【3歳児】

○秋の草の実や木の実を集めたり、使ったりして、自然物に興味をもつ。

○好きな遊びの中で、友達と“一緒”を楽しみながら自分の思いを自分なりの言葉で表す。

【4歳児】

○自分の思いを言葉で伝えたり、友達の思いに気付いたりしながら遊びを楽しむ。

○いろいろな素材や方法を取り入れ、自分なりに工夫して遊ぶ。

【5歳児】

○自分の思いを伝えたり、相手の思いを聞いたりしながら遊びを進める。

○友達を誘い合って、遊び方やルールを相談しながら考えたり工夫したりすることの楽しさを味わう。



お知らせとお願い

○ウルフィキャラバン～ぎふ BLUVIC～バドミントン交流

11月26日には、メーテレのウルフィキャラバンと共に、ぎふ BLUVIC（プロバドミントン選手）が来園します。5歳児の子どもが、プロのバドミントン選手と交流しますが、保護者の方もその様子をぜひご覧ください。2階遊戯室で行う予定です。詳しくは、週のお便りをご覧ください。時間は11:00～12:00です

○岐阜薬科大学との交流について

11月19日（水）には、保健指導の一環として、岐阜薬科大学との交流を実施します。演劇部の学生さんと腰塚教授による「感染症予防のための術やワクチン接種についての劇」を観劇します。保護者の皆様もぜひお越しください。感染症や予防接種などについて、正しい情報をきちんと知り、その上で考えたり判断したりする一歩になるのではと思います。腰塚教授への質問コーナーもあります。

○芸術鑑賞会について

11月27日（木）に、芸術鑑賞会を開催します。サクソやピアノ、パーカッションなど管弦楽器による演奏です。日頃、本物の生演奏を聴く機会はなかなかないと思います。ぜひ、保護者の方もお越しください、子どもたちと一緒に芸術の秋をご堪能ください。

小さなお子様をお連れの場合は、保護者の方の責任の下、見守りをお願いします。もしかしたら大きな音に驚いてしまうかもしれません。

○親子ふれあいフェスティバル③おじさんと遊ぶ会について

11月29日（土）には、親子ふれあいフェスティバル③おじさんと遊ぶ会が開催されます。例年、子どもたちのために、仕事終わりに集合したおじさん（お父さん）たちが、楽しい企画を考え、準備してくださっています。本当にありがとうございます。おじさんならではのダイナミックな遊びを企画・運営してくださるおじさん（お父さん）を大募集しております。ぜひ、子どもたちのためにひと汗かいてくださるとありがたいと思います。よろしくお願いいたします。

○制服・体操ズボン販売価格について

現在、岐阜市立幼稚園（加納幼稚園・岐阜東幼稚園）の制服は橘繊維株式会社さんが販売を行っております。しかしながら、近年、制服・体操ズボンを購入されるお子さんが極端に少なく、特に制服は10着程度になっています。橘繊維株式会社さんは、名古屋にある会社で、このままだと採算が合わず、今後の制服販売が難しくなるという旨のご相談がありました。今後、制服をなくすという選択もありますが、毎日朝と帰りに、ホックボタン（冬用）やボタンホールボタン（夏用）をかけたりはずしたりすることで、手先の機能が高まります。一日2回、毎日というのは、経験を積むにはかけがえのない時間でもあります。そういった点からもすぐに制服をなしにする選択はしたくないと考えております。制服販売を継続させるためにも、どうぞ新入園児のお子さんは、指定の制服を購入することにご協力くださいますようよろしくお願いいたします。

橘繊維株式会社さんとの協議により、今後は年間販売回数が減る可能性があります。詳細につきましては決定しましたらお知らせします。